

小・中学校におけるカリキュラム・マネジメント推進に関する研究（第二年次）
－研究協力校におけるカリキュラム・マネジメントの支援－

福島県教育センター 調査研究チーム 指導主事 石井 亮一

1 研究の趣旨

学習指導要領（平成 29 年告示）では、新しい時代に求められる資質・能力を、子供たちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指すことが示され、各学校において育みたい資質・能力を明確にした教育課程の編成及びその実現が急務とされている。そのために、学習指導要領の枠組みの見直し、「主体的・対話的で深い学び」の実現、「カリキュラム・マネジメント」の実現の三つが求められている。

そこで、本チームにおいては、「カリキュラム・マネジメント」の実現に焦点を当て、研究を進めることとした。カリキュラム・マネジメント推進のために、県内の取組状況を把握するとともに、研究協力校において、教育活動の質的向上を図るカリキュラム・マネジメントの在り方を提案し、実践事例として発信していく。

2 研究の概要

一年次は「資質・能力の育成に焦点を当てたD-CAPサイクル」をカリキュラム・マネジメントの推進方法として協力校に提案してきた。D-CAPサイクルとは、教育活動(Do)後の、評価(Check)、改善(Action)、計画(Plan)を1セットのCAPとしてとらえたマネジメント・サイクルである。

それを踏まえ、二年次は以下の内容で研究を進めていくこととする。

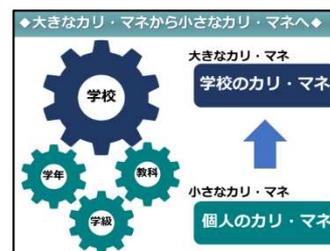
(1) カリキュラム・マネジメント推進方法の提案

一年次は、管理職のリーダーシップにより、組織として取り組むカリキュラム・マネジメント（大きなカリ・マネ）を推進してきた。今年度は、教職員一人一人が学校の課題を自分事と捉え、教育目標実現を目指して、学級や教科指導でそれを着実に実現していくために、学級や教科単位で行う個人で取り組むカリキュラム・マネジメント（小さなカリ・マネ）の推進方法を提案する。

小さなカリ・マネをまわすことで、大きなカリ・マネが自然と動き出す姿を目指す。

(2) 研究内容の発信

協力校での実践を基に、カリキュラム・マネジメント推進の在り方を、汎用的な取組実践例としてリーフレットにまとめ、県内に発信する。



3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 小さなカリ・マネに取り組んだことで、個と組織を往還するD-CAPサイクルができあがり、教職員一人一人が資質・能力の育成の視点で教育活動に取り組む意識がより高まった。
- 昨年度提案した推進方法について、各協力校が実態に合わせ、ICTを活用して実践するなど、より効果的、効率的な取組を進めるようになってきている。
- 中学校の協力校では、教師主導の指導を見直し、生徒が自分で考えることができるよう、生徒たちに任せる場面を増やしたことで、生徒の主体的な活動が見られるようになってきている。
- 小学校の協力校では、昨年度末に自分たちでアイデアを出し合って作成した学校経営・運営ビジョンを基にカリキュラム・マネジメントを推進しており、使える経営・運営ビジョンとなっている。

(2) 今後の課題

- 学校のカリキュラム・マネジメント推進の取組を、地域や保護者にさらに周知していくことが必要である。